



No.38

# げんきカエル



## こども病院ニュースレター

### 平成24年度 診療報酬改定のポイントについて

医事企画課長 山上 美和

患者様が病院等の医療機関で診療を受けたときに支払う公定料金を定めたものが診療報酬です。おおよそ2年に1回の割合で改定されますが、本年がその改定の年に当たります。

今回の改定では、重点課題として「救急、産科、小児、外科等の救急医療を適切に提供し」「地域生活を支える在宅医療の充実」を図り「がん治療、認知症治療」を推進するということが掲げられています。

当院に関係するところでは、医療従事者と患者様との対話を促進するために、患者様からの相談窓口を設置し、専任の看護師、社会福祉士等が幅広く対応できる体制をとっている医療機関に対して「患者サポート体制充実加算」が新たに設けられました。当院では、以前より指導相談・地域医療連携部の窓口において、患者様に対する相談体制を整えており、4月より施設基準を取得しています。

また、NICU入院患者様の退院にむけての支援について、新生児特定集中治療室退院調整加算が強化され、NICUに勤務経験のある看護師が退院調整に参画することを要件にして、退院時1回につき300点から600点に引き上げられました。中でも、超低出生体重児(出生時体重1,000g未満)、極低出生体重児(出生時体重1,500g未

満)等の長期入院が見込まれる患者様については、退院支援計画策定時と退院時の2回、新生児特定集中治療室退院調整加算が算定できるようになっています。

その他に、難易度の高い手術に対する評価が上げられるなどの改定も行われています。

このように、小児や産科に関わる医療について、社会的に重要性が見直されている昨今、これに関わる私たちもその期待に応えられるよう業務に励みたいと思います。



## シアトル研修報告

麻酔科 池島 典之

2012年2月から3月にかけての4週間、米国のシアトル市にあるシアトル小児病院への派遣研修に行きまして参りました。当院の国際交流委員会を通じて行われるこの派遣研修は今年で4年目になります。私と心臓血管外科の長谷川、小児外科の荒井の3名の医師がそれぞれの目標を持って充実した研修生活を送ることができました。

自分たちが日ごろ行っている医療やそれを取り巻く環境、そしてそれらの未来を改めて考える機会でもありました。今回の貴重な経験を日々の診療に生かしていきたいと思うとともに、今後もこの素晴らしい交流の機会が続くことを願っています。



## 「教育担当看護師長就任について」

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 看護部 教育担当看護師長・小児看護専門看護師 濱田 米紀

4月より教育担当看護師長となりました濱田です。今年度から県立病院において初めて、当院と尼崎病院に、新人看護師等に対する教育やサポートの充実、看護師確保に向けた取り組みの強化を図るための、教育および看護師確保を担う専従者が配置されました。教育委員、教育担当者、実地指導者等と協力し、院内研修の企画・運営や各部署における教育と支援、また教育に携わる方々への支援等を行っています。看護師の皆さんが専門職者として成長し、充実感をもって働けるような教育環境を整え、お子様やご家族の方々によりよいケアが提供できるように支援していきたいと思っております。教育等に関してお困りなことがありましたら、いつでもお声をお掛け下さい。どうぞよろしくお願い致します。



新人看護師研修の様子



教育担当者会の仲間たち



教育委員会の仲間たち



# 血液腫瘍内科の紹介

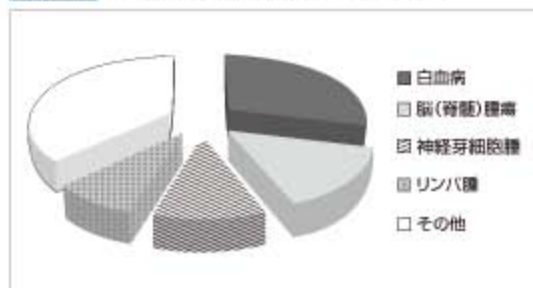
血液・腫瘍内科医長 石田 敏章

みなさん、こんにちは！血液腫瘍内科です。われわれは「小児血液疾患」、「小児がん」の子ども達を日々診療しています。私たちの仕事の特色やとりくみについて少し説明したいと思います。

## 特徴

「小児血液疾患」、「小児がん」は子どもの病気の中でも非常に珍しいものです。しかし命にかかわる重篤なものが多く、特別な治療を必要とします（グラフ①）。

グラフ① 当院における小児がん（平成23年度）



習熟した看護スタッフおよび保育士を有する専用の入院病棟で、多くの科の先生達と協力し治療（化学療法・外科療法・放射線療法）を行います。子どもたちは長期間の入院を余儀なくされます。そのような子どもたちに専属の保育士による保育や、院内での学習により入院中の生活がより良いものとなるように心がけています（写真①）。

写真① 入院病棟での保育風景



## とりくみ

・白血病をはじめとした小児血液疾患や小児がんは骨髄移植等の造血幹細胞移植を必要とすることがあります。当科でもそれらの難しい病気を治すために無菌室で多くの移植を行っております。

・小児白血病や小児がん治療にかかわる多くの多施設共同研究、臨床研究に参加しております。日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)やその他の小児がんにかかわる全国規模の研究グループでは、小児白血病や小児がんのより良い治療法を求めて多くの研究を行っております。全国でも有数の小児がんの子ども達を治療しているわれわれも、積極的にこれらの研究グループに参加し診療実績を上げております。また、高度先進医療への取り組みも進めております。

・当科では診断・治療の一環として骨髄穿刺（マルク）・髄腔内注射（髄注）など痛みを伴う処置をしばしば行ないます。この処置の苦痛・不安を軽減するために、病棟にて麻酔科の全面的な協力の下、閉鎖循環式全身麻酔（セボフルレンを用いた吸入麻酔）による疼痛管理を積極的に実施しています（写真②）。

写真② 入院病棟での骨髄検査



## 診療実績（平成23年度）

新患総数…187（白血病21人 脳腫瘍11人など）  
造血細胞移植…20

わたしたちは、小児血液疾患や小児がんなどの難しい病気になった子ども達が元気になるように少しでもお手伝いをしたいと考えております。心配なこと、知りたいことが何かございましたらいつでもご連絡ください。

血液腫瘍内科一同

## 在宅物品の受取窓口が新しく設置されました

指導相談・地域医療連携部次長 橋本 ひとみ

今まで、物品は各診療科で、消毒薬は薬剤部からお渡ししておりました。平成24年7月2日から、予約センター隣に在宅物品の受取窓口を設置し、在宅医療に関する物品を一括してお渡ししていま

す。この窓口を設置することで、患者様の待ち時間が少しでも短くなればと考えております。

会計終了後に、物品リストを持って在宅の物品受取窓口にお越しください。



### Concept

コンセプト

#### 基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母と子どもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。



#### 基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親と子どもが一体となった治療の推進
6. 子どもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

### 編集後記

今年も暑い夏がやってきました。節電がさげばれる中、少しでも役に立つかなと自宅のベランダにすだれをつけてみました。予想以上に効果があったので、来年はヘチマでも栽培してみるかと思う今日この頃です。

編集委員長：橋本ひとみ  
 編集委員：田中亮二郎 木村 弘子 内海 祐子  
 井手 敦子 服部 典君 赤松 翔子  
 山根 龍也

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



**兵庫県立こども病院**

周産期医療センター 小児救急医療センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1  
 TEL 078-732-6961  
 FAX 078-735-0910(総務課)  
 FAX 078-732-6980(予約センター)  
 URL: <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>  
 E-MAIL: [info\\_kch@hp.pref.hyogo.jp](mailto:info_kch@hp.pref.hyogo.jp)